



フットボールセンター愛西 誘致の経緯は

竹村 仁司議員

協会から拠点整備の申し出があった
教育部長



▲フットボールセンター愛西のイメージ図

問 立田総合運動場に対して、愛知県フットボールセンター愛西の誘致に至った経緯は。

答 令和元年9月に、スポーツを楽しめる人工芝や芝生のグラウンドづくりを進めていた公益財団法人愛知県サッカー協会（以下、県サッカー協会）から、新たに西尾張地域のスポーツ施設の拠点として、本市と連携し整備したいとの申し出があり、4年1月、愛知県フツ

トボールセンター愛西に関する整備・運営事業基本協定を締結した。

問 今後のオープンに向けてのスケジュール、想定される年間の動員数は。

答 5年度中のオープンに向けて、県サッカー協会は、夜間照明のLED化や人工芝グラウンド1面、防球ネットの拡幅等の整備を予定している。年間動員数は、利用者、観戦者を合わせ、最大で

年間約12万人を見込んでいる。

問 県サッカー協会の運営施設となれば、多数の来訪が想定される。これまでの周辺地域との協議、理解の進め方は。

答 令和元年度に県サッカー協会から立田総合運動場の整備に関する協議の申し入れがあり、立田地区の住民、スポーツ協会に対して周知した。

問 周辺地域では、アクセスの問題が心配だ。車で名古屋市から会場に向かう時、直線で県道あま

愛西線、津島南濃線を通り、町方新田新西馬の交差点まで来る。会場に向かう選手・応援団などを乗せた車は普通車か、大型バスか。新西馬の交差点から先はバスで通るのは難しいと考えるが。

答 普通車や大型バスを想定している。県道津島海津線は、一部狭い区間がある。利用者には県道津島南濃線を通るルートを利用してもらえるよう、県サッカー協会と協議をしている。

2年度には、芝生多目的グラウンド整備基本計画書の概要及び県サッカー協会の概要について、3年度には、芝生グラウンド整備基本計画書の概要及び県サッカー協会との基本協定の締結について、それぞれ立田地区総代代表や早尾町総代、副総代、立田地区の住民、スポーツ協会に対して周知した。